

いきいき健康生活

鴻巣市広報「かがやき」 平成23年1月15日号 掲載

経鼻胃内視鏡について

皆さん、「胃カメラ」と聞くと、つらくて、苦しい検査というイメージがありませんか？胃の最近の内視鏡検査は、口からだけでなく鼻からも行えます。

「なぜ鼻から入れるのか？」と言うと、従来の口から入れる内視鏡検査の場合は、胃カメラが食道に入る際に喉の奥で約90度に曲がりながら入ることから、喉に接触し咽頭反射（異物を吐き出そうとする防御反射）が起きて吐き気を催すことが多くありました。

これに対し、経鼻胃内視鏡（鼻から通す胃カメラ）の場合、食道へまっすぐ入るため喉に接触せず刺激になりません。

また、以前の胃カメラは直径が約1cmありましたが、経鼻胃内視鏡の場合は約5mmと細く、挿入時の苦痛をほとんど感じません。

胃カメラを挿入中でも、普通に会話をすることが出来ます。「胃の調子が悪いな」と感じたら怖がらず、積極的に検査を受けてみてください。